



安城市議会議員 石川つばさ通信 号外

市政レポート

市役所庁舎の防犯強化 ICレコーダー活用も



安城市は、市役所庁舎の防犯対策として行政暴力発生時対応マニュアルを作成・周知したことや、防犯カメラ増設検討、ICレコーダー活用などの方針を示しました。これは、7月に発生した刃物事件を教訓としたものです。

同事件について市は、「7月13日午後5時20分頃、男が社会福祉課生活支援係の窓口に来て、カウンターに備えてある椅子に着席。持参したナップサックから刃の部分の部分を布で包んだナイフを取り出し、布をはずしてナイフの刃をあらわにし、柄の部分の部分をカウンターに打ちつけ、『安城市役所、安城市長やったるぞ』などと怒鳴り、職員を脅迫するような態度をとった。5時27分頃、他の職員が110番通報し、5時33分頃、安城警察署員が駆けつけ、5時50分、男性を現行犯逮捕し、警察署へ連行した。市が脅迫をうける心当たりはなく、動機は分からない。」と説明しています。

これを踏まえて作成された行政暴力発生時対応マニュアルでは、暴力発生時の担当職員の役割分担や、行政暴力の具体例、該当する場合には直ちに警察へ通報することなどが記されています。

また、既に防犯カメラが設置されている一部部署以外への設置拡大の検討と併せ、ICレコーダーの活用を図ることにも言及しました。7月28日付で既に周知を図っているとのことで、具体的には、「窓口対応や交渉の記録などに使用する場合には、原則として、課長又は所属長の許可を得て、相手方に録音することを告知した上で使用する。特に不当要求の恐れがある場合については、相手方に告知することなく使用できることとしている。」としています。

石川つばさ事務所 安城市住吉町荒曾根 1-245 アワーズビル 2F 南
電話 0566-98-6932 メール ishikawa2011@aria.ocn.ne.jp

編集：石川つばさを支援する会

衆院解散へ

自公以上の

求められる野党共闘

前回衆議院選挙から間もなく3年。いつあってもおかしくないと言われてきた衆議院解散総選挙は10月に実施されることが濃厚となりました。

安倍首相はこの間、「我々が提出する法案についての説明は全く正しい。私は総理大臣なんですから。」という問題発言に代表されるように、立憲主義や法治国家という近代国家の基礎をことごとく否定し、日本の国政史に数々の汚点を残してきました。

前回選挙は295小選挙区のうち、自民222（追加公認含まず）、公明9で、野党が勝ったのは元々野党が強い地域や候補者が際立って優れていた場合に限定されました。この結果、安倍政権の与党内基盤は盤石となりました。

現状、野党の支持率は伸び悩み、一足飛びの政権交代は容易ではありません。しかし、先々の政権交代を見据え、「最低でも安倍政権を交代」させるためにも、前回衆議院選の

様な与党圧勝は絶対に避けなくてはなりません。そのためには、1人しか当選しない小選挙区での野党共闘は必須です。自民・公明が強固な“与党共闘”をしているのに、野党がバラバラでは勝てる道理がありません。

もしバラバラのまま、あるいは自公以下の本気度であれば2014年の選挙結果が再現されるだけです。結果の見た選挙ほど投票率を押し下げるものはありません。

もはや時間はありません。早急に野党共闘体制を構築し、①前回与党が勝利した選挙区では一つでも多く野党が議席を奪還すること、②前回野党が勝利した選挙区では議席の死守と併せ与党候補の比例復活をさせないことが求められます。

左記に記した立憲主義など、国の骨格を成し、野党四党で共有し、安倍政権と対峙する旗はあります。野合批判を恐れる必要はないのです。

三年前の再現避ける